

# 有用海藻類のバイオテクノロジー基礎技術開発研究（要約）<sup>\*</sup>

杉山 昭博

主としてヒトエグサ、モズク類の養殖用元種の保存技術を開発するため、平成2年度から基礎技術開発研究に取り組んでいる。

本年は初年度のため試験を設定したばかりで資料が集まっておらず、概要のみを報告する。

## 1. ヒトエグサ

将来的な育種を目的として分解酵素を用いてプロトプラストの作出を試みた。

平成2年3月から4月にかけて成熟藻体から配偶子を放出させ、接合子の寒天培地上での培養試験を行なっている。各種培養条件の検討、形態変化の観察、生活史の追試験等を平成3年度にかけ継続試験している。また、接合子等の凍結保存試験を設定した。

## 2. イトモズク

平成2年3月から5月にかけて竹富町鳩間島で養殖試験中のイトモズクを母藻として元種保存試験を開始した。方法は従来の種板保存、遊走子を凍結保存等で、平成3年度にかけて安定した保存方法の開発と、初期発育形態の観察、各種培養条件の検討を行なう予定である。また、オキナワモズクとの初期形態の比較検討も今後行なう予定である。

## 3. クルマエビ種苗生産用餌料藻類の凍結保存と培養

地元養殖業者のためキートセロス等を種苗生産時期に合わせて培養し、随時提供した。

---

\*：県単独事業